

生活支援コーディネーター@レポートからお届けします！

## 千歳のまちのたからもの

第85回  
西区編

### パラスポーツを通じた交流 ～みんなのスポフェス～

8月23日、北進小中学校を会場に、パラスポーツを通じた交流イベント「みんなのスポフェス」が開催されました。本イベントは、障がいの有無にかかわらず誰もが共に支え合う「共生社会」の実現を目的に、千歳市社会福祉協議会が主催する「ふれあい広場事業」の新たな取り組みです。当日は子どもから大人まで約60名が参加し、20名のボランティアと一緒に、笑顔と交流があふれる一日となりました。

パラスポーツとは、ボッチャなど、障がいのある人のために考えられたスポーツや、一般のスポーツのルールを一部変更したり、専用の車いすなどの用具を使ってプレーするスポーツで、最近は障がいの有無に関わらず共に楽しめるという点も注目されています。

今回は、ボッチャ・車いすサッカー・車いすラグビー・デフサッカーの4種目の体験コーナーが開設されました。参加者は実際に身体を動かしながら、競技の奥深さと魅力を実感し、「初めてボッチャに挑戦したが、想像以上に集中力が必要で面白かった」「車いすの操作が難しく、選手のすごさを改めて感じた」などの声が聞かれ、体験を通じて自然と障がいへの理解が深まる機会となったようです。

会場にはパラスポーツ体験のほか射的やヨーヨーすくい、スーパーボールすくい、わたあめ、駄菓子屋さんなどの縁日コーナーも設けられ、参加者は、競技体験の緊張感とは対照的に、世代を超えて笑顔で語り合う和やかな雰囲気が広がるひとときを楽しんでいました。

「障がいのある人となない人が一緒に楽しめる場があるのは素晴らしい」「こうしたイベントが地域でさらに増えてほしい」といった感想も多く寄せられ、スポーツや遊びを通じて心の距離がぐっと縮まる一日となりました。



〈掲載内容についてのお問い合わせ〉

社会福祉法人千歳市社会福祉協議会生活支援コーディネーターまで。  
TEL(0123)27-2526 FAX(0123)27-2528



## 支笏湖だより

足元の支笏湖の恵み～札幌軟石～

支笏湖ビジターセンター  
八川 真幸

支笏湖ビジターセンターの玄関や室内で足元を見つめてください。あたたかな風合いの灰色の石材が敷かれています。これが「札幌軟石」です。およそ4万6千年前に起きた支笏湖が誕生する大規模な火山活動の噴火の際、火砕流となって流れ出た噴出物は、現在の札幌市から恵庭市、千歳市、苫小牧市にかけて広がりました。



▲札幌軟石の床材とブロック

火砕流は、高温の火山ガスと多量の火山灰・軽石などの火砕物とが混然一体となって高速度で流れ落ちてくるもので、固体の火砕物が集まった本体の温度は摂氏600～700度ほどあり、秒速100m近くの高速度で、周りに高温熱風（火砕サージ）を伴って突進してきます。

この高温でいったん溶けた火山灰などが後にゆっくり冷えて、自らの重さにより圧縮され気泡を失い固まったものが溶結凝灰岩（ようけつぎょうかいがん）、「札幌軟石」です。

発見地（札幌市南区石山）にちなみ「札幌軟石」と呼ばれています。明治4(1871)年に発見され、キメが細かく適度な硬度を有していること、柔らかいため切り出しが容易であること、軽く保温性が良いことから、開拓使が利用を奨励したと伝えられています。

本格的な「札幌軟石」の採掘は明治8(1875)年から始まりました。開拓使が札幌に西洋建築風の庁舎や倉庫を建て始めた頃で、倉庫建築に多く使われ、全道各地に札幌軟石造りの建物などが建ち、「札幌軟石」は北海道開拓の歴史に無くてはならない建材として北海道各地に運ばれました。

今でも札幌軟石造りの建築物が札幌や小樽に残されています。支笏湖ビジターセンターでは支笏湖周辺の自然素材の一つとして、はるか昔に支笏から生まれ札幌で採掘されて再び支笏に帰ってきた「札幌軟石」を床材として用いています。さまざまな展示をご覧になるとともに「札幌軟石」を踏みしめ支笏湖の歴史を感じてみませんか。

ちゃんと は地域の方々を中心とした独自のポスティングシステムで、毎週各ご家庭にお届けしています。

配布地域内でお手元に届いていない場合はお届けしますので、お気軽にご連絡ください。 ちゃんと編集部 TEL.0123-27-0911

脱炭素経営の第一歩  
脱炭素セミナーが開講



証を取得するまで」をテーマに講演しました。

SBT（サイエンス・ベースド・ターゲッツ）とは科学根拠に基づき、CO<sub>2</sub>やメタンガスなど温室効果ガスの削減目標を掲げる取り組みです。

米澤社長は「当社はCO<sub>2</sub>排出量の多い原材料を使用していること、また社会全体で脱炭素の重要性が増しており、取り組まなければ将来的なリスクになると考え、SBT認証を取得しました」と述べました。続けて、中小企業向けSBT認証の取得方法や取得に向けて工夫したことなどを説明。最後に「今後は毎年、目標達成状況の公表と検証を続け、計画の達成に向けた取り組みを継続していく」と今後の方針を掲げました。

恵庭市民会館にて8月26日、「脱炭素セミナー」が開かれ、市内初の国際認証「中小企業向けSBT認証」を取得した、コンクリート2次製品の製造業を手掛ける株式会社よねざわ工業代表取締役社長の米澤悟社長が「脱炭素経営の第一歩 当社が中小企業向けSBT認

## えにわ まちかどトピックス ちとせ

千歳市管工事業協同組合  
千歳水道局に給水袋を寄付



9月10日、千歳市管工事業協同組合（高野悠理事長）の創立50周年を迎え、記念事業の一環として同組合と協力関係にある、千歳市水道局（石田肅一 公営企業管理者）へ非常用給水袋1100袋（50万円相当）の寄付セレモニーを同局前で行いました。

現在、市には約2万5000袋の備蓄があり、使用期限が切れた袋などを交換するため、毎年約3000枚を更新しています。

高野理事長は「今日、自然災害が増加しており、メディアなどで給水袋の代わりにペットボトルを使って給水しているのを見ていました。今回の寄付がこれからの災害の備えの助けになれば」と話しました。

石田管理者は「この度は創立50周年、おめでとうございます。また、非常用給水袋のご寄付、誠にありがとうございます。非常用ではあるので使う機会が来ないことを願いますが、いざというときのために大切に使用させていただきます」と語りました。